

赤野井湾底質改良水域のモニタリング調査

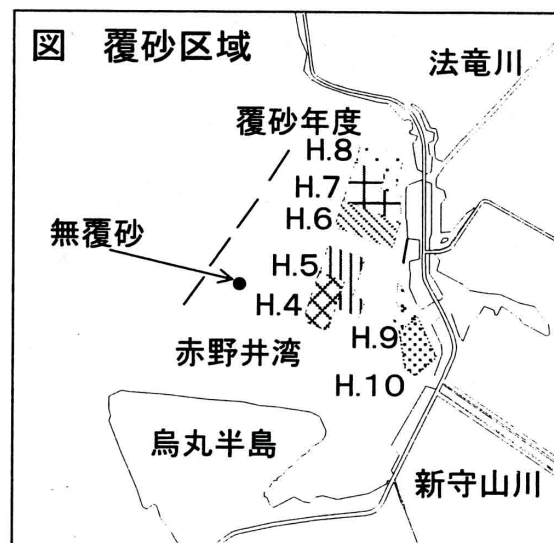
幡野 真隆

◆背景・目的

環境悪化の著しかった赤野井湾の漁場環境を改善するため、平成4年から10年にかけて浚渫・覆砂事業が行われてきた。本調査ではその改善効果が維持されているか確認することを目的とした。

◆成果の内容・特徴

- 過年度と同様、平成4、6、8年覆砂地点および無覆砂地点（図）において底質および底生生物の分布状況は平成8年覆砂区で引き続き泥の堆積がみとめられ、貝類も他地点よりも少なかったことから、底質環境の悪化が懸念された。
- 魚類の生息状況は昨年度は覆砂地点でホンモロコが確認されたが、今年度は捕獲されなかった。対照地点においてはブルーギルが昨年度よりも多く捕獲され、在来魚の割合が減少した。
- モニタリング調査によって覆砂区域内で泥の堆積が懸念されたことから、平成4年～10年覆砂区域内27箇所において採泥調査を行ったところ、平成7、8年覆砂区域の一部で泥の堆積が認められた。
- これまで赤野井湾内ではほとんど認められなかった水草の繁茂も確認されたことから、覆砂区域内14箇所水草調査を行ったところ、平成6、7年覆砂域で比較的多くの水草が繁茂していた。



◆成果の活用・留意点

- 湾内北東部で泥の堆積や水草の繁茂が認められたことから、今後も動向を注意深く監視していく必要があるとともに、必要に応じて耕耘等の改善策を講じる必要がある。